

仙台市議会 令和6年度 第1回定例会 一般質問

① [学びの多様化学校(いわゆる不登校特別校)への支援体制について]

▶私立ろりぽっぶ小学校への支援体制

Q: 学びの多様化学校は本市においては坪沼にある私立のろりぽっぶ小学校が設置されている。これまでも議会の場で質疑し、もともと在籍していた小学校との連携や保護者への通学費支援・公立並みの財政支援を求めてきた。今般これまで求めてきた一方で、全国初となる私立への学びの多様化学校への通学費支援が実現できたことは高く評価している。一方で、私立の学校ということで学費の高さは大きなハードルとなっている。入学をあきらめるケースや、通学の継続が困難になり公立の在籍校に戻ったあと再び不登校になった事例も保護者から伺っている。本来であれば、公立の学びの多様化学校があってもおかしくない。本市に通う様々な課題を抱えている子どもたちが、学費が原因で学びの多様化学校に通えないということが無いように支援体制の充実をすべきと考えるがいかがか。



(写真:令和5年2月14日(TBCニュース))

A: 学校に子どもたちを通わせる保護者の方々から、経済的な負担の軽減を求める声を受け、新年度からろりぽっぶ小学校に通うご家庭に、交通費の支援や所得に応じた就学支援を行うとともに、併せて通学指導センターやフリースクール等民間施設に通うご家庭に対しても、交通費を支援することとしたところである。一方で、公立並みの財政支援に関しては、教育機会確保法で政府が速やかに経済支援の在り方について検討して、国が必要な措置を講ずるとされている。本市としても重要なことだと認識しているところから、国に対して支援制度の創設や財政措置について、引き続き国に対し強く要望してまいります。(市長)

③ [市有施設の大規模改修の時期と考え方について]

▶若林区文化センター大規模改修に伴う事務室移転

Q: 現在、大規模改修工事が行われている若林区文化センターでは、今年の6月から施設の予約や使用料を支払う受付窓口である事務所の移転が予定されている。その事務所の移転先が、若林区役所隣の若林区中央市民センター別棟の2階にある第3会議室とのこと。この部屋は約30名近くが入れる会議室になっており、町内会の集まりや各種団体の研修会など、区役所の広い駐車場に駐車できることから市民が集まりやすい会議室として利用されている。それ以外にも創作室、和室4、調理実習室といった市民利用施設も、6月から半年にわたり事務所機能の一部に充てられるとのことだが、民間ビル等ではなく、市民利用施設を事務室に充てる運用は公共サービスの低下を招いており適切ではないと考える。市民の目線に立った運用に改めるべきではないか。

② [仙台市老人クラブ連合会と本市の関わりについて]

▶老人クラブの会員増加に向けた取り組み、仙老連への加入促進

Q: 高齢者が元気で活躍できる団体の一つに老人クラブがある。現在では地域・健康づくりの他、世代間交流を軸とした地域共生社会の実現に向け、地域の担い手として行政の補完的な役割も果たしており、その中核となるのが仙台市老人クラブ連合会(仙老連)である。一方で課題も多く抱えており、コロナ禍での活動縮減、定年引き上げや高齢者の再雇用促進などにより、近年、仙老連からの会員減少・脱会の課題も伺っている。本市として、高齢者をスポーツや文化芸術のイベントで繋ぐことのほか、健康づくりイベントや地域の見守り等に取り組んでいる仙老連と今後とも協働していくために、老人クラブの会員増強や仙老連加入老人クラブへのインセンティブ付与等、本市として後押ししていける部分があるものと認識しているがいかがか。

A: 本市ではこれまで、単位老人クラブに対する助成金の支給や、老人憩の家などの活動の場の提供を行ってきたほか、各区で実施する豊齢まつりの共催や、仙台市老人クラブ連合会が開催する全市の健康づくりのイベントの開催を支援するなどして、新たな会員の加入を後押ししてきた。更なる加入促進に向けては、より単位老人クラブがメリッと感じられるような仕組みが必要になることから、連合会とともに、他自治体における取り組みを参考しつつ、各老人クラブの意見も伺いながら、表彰制度の充実など、有効な加入促進策を検討していきたい。今後とも、多くの地域において活動する老人クラブの魅力を高め、加入しやすくなるような存在となるよう、引き続き加入者増加に向けて支援をしてまいります。(健康福祉局長)

A: 若林区文化センターは、若林区中央市民センター及び若林図書館との合築施設であり、当該施設の管理機能を有する事務室の一体的な移転にあたっては、住民福祉の観点から、市民の皆様による市民センター別棟内の諸室の利用や、図書の出借等の機能を円滑に維持することを念頭に置き、3施設が一体となって検討を重ねてきた。結果、事務室は現施設に近接する場所に確保することが必要と考え、民間ビルをはじめ移転先を検討したが、近隣に適当なオフィス用物件が見当たらず、やむを得ず、最低限の期間で別棟の一部を使用することとなった。ごく例外的な対応として、今回このような判断となった。市民の皆様にご不便をおかけいたしますことから、代替施設を紹介など、丁寧な周知に鋭意努めてまいります。(若林区長)



仙台市議会 令和6年度 第1回定例会 予算審査特別委員会

① [集金アプリの市教委としての進め方]

▶集金アプリの手数料について

Q: まずは学校集金アプリ「シグフィ」について。新たな保護者負担が発生するにも関わらず、プリント1枚で周知を行うとした今回の対応は適切であったか。

A: 保護者の利便性や学校の事務負担軽減といった導入の背景や手数料の負担、アプリを利用しない家庭への納入方法等の説明が充分ではなく、丁寧な説明が必要であった。

Q: 集金回数によって手数料がかかるが、各学校ごとの判断となっており、集金回数が学校ごとに異なるのは問題ではないか。また、学校現場へ丸投げしすぎではないか。市教委として、集金回数を統一させるべきではないか。

A: 集金の回数については1回あたりの集金額なども考慮の上、各学校で判断しているが、教育委員会として学校の実情を把握しながら考え方について整理するなど対応していきたい。

Q: 事業者選定の考え方からも、仙台の事業者で今回のようなアプリを開発・運用できる事業者はなかったのか。他都市事業者に年間6,000万円以上の手数料が流れることになる。地域経済活性化の視点を持つべきではなかったか。

A: 検討を進める上では地域経済活性化の視点も必要であった。今回の集金アプリの導入に当たっては、情報化相談制度を活用して、利用できるサービス事業者8社を選定した。いずれも県外の事業者となった。



② [学校トイレ洋式化の推進]

▶洋式化率の状況と達成時期、目標値の再設定

Q: 令和4年度末における洋式化率50%未満の学校数は59校あり、令和9年度末までに50%を超える見込みであった。令和5年度には24校実施し、新年度である令和6年度には35校の改修工事を行うことで本市の学校トイレの洋式化はよりすすべての公立学区で50%を超えることになる。すべての工事完了予定見込みと、更なる洋式化の推進、市民の皆様への進捗状況の公開はどのようにしているか。

A: 令和6年度に着手する学校トイレの洋式化の工事は令和8年度には完了し、洋式化率50%を超える。各学校と協議のうえで、洋式化の割合を検討していく。市民の皆様への進捗状況をできるだけ早期に公表できるように努めてまいります。

実現しました!

※若林区内の小・中学校のみ掲載
黄色の2校は新年度追加

工事完了の時期が令和9年度から令和8年度と1年前倒しの洋式化率50%に!

①(令和5年度)

- 1) 大規模改修工事 沖野東小学校 **完了**
- 2) 増改築等 蒲町中学校 **完了**

②(令和6年度の予定)

- 1) 個別洋式化工事 遠坊小路小学校、沖野中学校
- 2) 大規模改修工事 南小泉小学校 **完了**、沖野小学校 **完了**、古城小学校 **完了**

③ [本市に設置されている「きこえの教室」へのロジャー・マイク整備]

▶きこえの教室

Q: 聴覚に課題を抱えている子どもたちが、個人での持込みを行っているロジャー・マイクを昨年度各学校に1台ずつ導入していただいたが、もう1台ずつ導入して通級で通う子どもたちも学べる環境を整えてほしい。

A: 合理的配慮の視点からも検討してまいります。

④ [行政のデジタル化をさらに前へ]

▶行政サービスのデジタル化推進

Q: 本市では「Full Digitalの市役所」を目指して行政のDXに取り組んでいる。不便の解消が本当のゴールではなく、デジタルの力を活用しながら、「ひと」中心の行政サービスを目指すとしている。そのためには、各局・各区役所がデジタル化の計画を前倒しで進めていく必要があると考えているがいかがか。

A: 次期DX推進計画において、令和6年度から令和8年度までを集中改革期間として、本市での申請の9割をオンライン化するなど具体的な成果目標を掲げている。市民の皆様への利便性の向上、業務効率化に繋がるよう関係局と連携しながら計画の早期実現に向け取り組んでいく。



実現しました!

子どもの人数分だけのロジャー・マイク21台を在籍校に配備しました!

本市内にはきこえの教室が小学校4校(南村木町、木町通、長町、桜丘)、中学校1校(長町)に設置されています。令和4年度中に各学校に1台ずつ計5台のロジャー・マイクが配備されましたが、令和5年度末には在籍校から通う児童生徒にも一人一台ずつ計16台のロジャー・マイクが公費での配備となりました。合理的配慮の観点からも、安心して学べる環境や友達との会話を楽しくする機会を失ってはなりません。引き続き、様々な課題を抱える子どもたちや保護者の声を形にしていきたいと思います!

三重県伊勢市 “デジタルによる社会変革の取り組み”

伊勢市の門前町にある「丞びや」は創業150年の老舗企業ですが、店舗運営にITツールを導入したところ売上を5倍、利益率は10倍となった企業です。特に重視したのは、DX推進と人流データを活用したデータ分析。仙台市でもこれまで市内の様々な場所で人流データを取得し、得られた情報をオープンデータとして公開し、地域の回遊性向上のための施策検討、感染症対策・防災への活用など、地域課題解決に向けたデータ活用の可能性について検討してきました。DXは様々な変革を起こし、ITを活用し新しい価値の創出を行っていくことができます。仙台市として行っている人流データをさらに活用し、テックロジーを活用したいと希望する企業に対し、民間と連携しながら個がしっかりと稼げる後押しを、行政として取り組むことが必要です。

株式会社EBILABの小田島代表取締役から

議決された内容は「仙台市議会インターネット中継」で検索ください。

大規模改修工事の実施に伴う施設休館等のお知らせ (令和5年12月26日)

若林区文化センター・若林区中央市民センター事務所の移転に伴い業務を休止します。

大規模改修工事による事務所の移転により、若林区文化センター・若林区中央市民センターの窓口業務を休止します。休止期間中は施設利用や予約、使用料の支払いができません。インターネットからの申し込みも8月分の当選確定手続き以外はできません。

なお、仮事務所(移転先)は、若林区中央市民センター別棟2階の第3会議室となります。電話番号は変わりません。

■ 期間
令和6年6月1日(土)～6月20日(木) (予定)

■ 事務所移転先
若林区中央市民センター別棟2階

詳しくは右記の二次元コードまたは、ホームページ
<https://www.hm-sendai.jp/sisetu/wakabayasi/>
 をご覧ください。

【お問い合わせ先】
 若林区文化センター ☎022-282-1171